

令和7年度 第3回
江戸川区ひきこもり支援協議会
議事録

江戸川区福祉部

令和7年度第3回江戸川区ひきこもり支援協議会

日時：令和8年2月9日（月）午後3時30分から午後5時00分

場所：グリーンパレス 集会室402

出席者：委員 学識経験者、ひきこもり支援専門家、ひきこもり経験者の家族、
ひきこもり経験者、医療関係者、相談支援関係者、
町会自治会関係者、民生・児童委員、就労支援関係者、
居場所づくり事業関係者、江戸川区福祉部長
事務局 生活援護管理課長、ひきこもり施策係職員

議事：1 令和7年度の実施状況（報告）
2 令和8年度の取組み
3 その他

1 令和7年度の実施状況（報告）

- ・FM えどがわ「心のよりみちラジオ」は、これまで4回放送し、区公式YouTubeチャンネルにて3回目まで視聴できるようになっている。2月2日時点で延べ671回の視聴があった。
- ・区立図書館を利用した就労体験を1月から開始した。1日15分～最大2時間の短時間労働で、週2日程度、最長6か月体験できる。最低賃金相当の報償費を支払い、就労の喜びやモチベーションの向上につながることを期待している。ひきこもり施策係、ひきこもり相談窓口および図書館指定管理者が体験者のフォローを担う。現在1名が体験中である。
- ・ひきこもり実態調査で「ひきこもりあり」と回答したが支援につながらなかった世帯のうち、緩やかにつながっている世帯へ10月後半に案内を郵送した。新規の相談に1名がつながった一方、「情報提供不要」と191件の連絡があり、「ひきこもり」という言葉への抵抗や当事者への影響に対する懸念、なぜ自分が対象なのか等のご意見が寄せられた。
- ・ひきこもり講演会は、令和7年11月15日（土）開催し、合計33名の参加があった。アンケートの回答で「よかった」が9割を超え、今後聞いてみたいテーマでは、居場所、当事者や支援者の話の要望が多く挙がった。
- ・地域の居場所との連携として、出張当事者会を「なごみの家」と「地域活動支援センター」で3回実施した。今後さらに拡充し、ひきこもりの状態にある方が安心して利用できるよう連携していく。
- ・広報えどがわを活用した相談支援の周知・拡充のため、イベントの告知に加え「相談」の案内について掲載を始めた。

【委員から出た意見】

- ・図書館での就労体験は、ひきこもりの状態にある方にとって馴染みのある場所で安心感があり良かった。

- ・就労体験事業の周知を図り、配架・書架整理以外の作業や図書館以外の施設活用など選択肢を拡大できるとよい。
- ・ひきこもりの状態にある方が「支援される側」から「支援する側（ピアサポーター）」になり、ピアサポーターとして就労できるとよい。
- ・情報提供では、宛名・差出人に「ひきこもり」と表記するのは、ひきこもりの状態にある方や家族への心理的影響が大きいため、差出人名や文面に広域配布である旨記載するなどの工夫が必要である。
- ・地域の居場所は、ひきこもりの状態にある方が体調や気分に合わせて出かけられるよう、常設かつ複数あるとよい。また、入りやすい雰囲気が重要である。
- ・常設の施設として、なごみの家や地域活動支援センターのプログラムを活用できる。ひきこもりの状態の方も利用できる旨周知したい。
- ・地域活動支援センターの案内は、各施設の対象や委託事業等の特色と違いを分かりやすく（正確に）行い、誤解のないようにする。
- ・情報収集について、親世代は紙媒体が有効、若年層は SNS・WEB が中心との実感がある。広報えどがわでの相談記事の掲載を継続していく。堅苦しさを軽減するため、連絡先の窓口表記は簡潔にする。

2 令和8年度の取り組み

- ・実態調査時点から状況が変化している可能性があるため、「支援の希望が不明な世帯」「支援拒否の世帯」へ情報提供を郵送で行うことを検討している。実施する際には、目的を理解してもらえよう明確化する、ひきこもりの状態にある方やその家族の状況を悪化させない配慮、継続して情報を受けていただける発信方法の工夫が必要と考えている。今後どのような方法（郵送、メール、SNS、電話等）で情報を受け取りたいか、送付状に希望確認欄を設け、各世帯の希望に沿う方法を検討する。
- ・ひきこもり支援施策の情報を効果的に届けるため、広報媒体の改善案を作成した。ひきこもり相談リーフレットは表面のキャッチコピーの一部を変更し、困りごとを「親亡き後」「外出したい」「居場所がない」「将来の不安」等の具体的な事柄を記載した。裏面はひきこもりの状態に応じて受けられる支援の全体が1枚で分かるようにし、詳細は別添チラシで補いたいと考えている。
ホームページは、江戸川区ひきこもり支援のトップページに「一般」、「ひきこもりの状態にある方」、「家族、兄弟」ごとの入口を設け、主要な項目を分かりやすく提示する。

【委員から出た意見】

- ・情報提供では、封書の表紙や差出人・宛名に「ひきこもり」という言葉を使用せず、代わりに「生きづらさ」「お悩み」等の言葉を使用したり、個別に特定の対象者へ送付した印象を避ける文章にしたりする工夫がある。
- ・二次元コードだけでなく、リンクを貼りクリックすれば指定のページに移行するなど、情報にたどり着くまで簡素になるといい。

- リーフレットの改善案は、文字数を削減したり、デザインや校正を工夫したりすると、見やすくなる。
- リーフレットには、相談員の似顔絵やプロフィール、ひきこもりの状態にある方の視点での文章、相談例等を掲載し、得られるメリットが伝わりやすいようにする。
- コメント形式の表現も有効である。
- ホームページのアクセス数等を分析し多くの方が見やすいページに改善し続け、必要な情報が届きやすいホームページができるといい。

3 その他

- 令和8年度は年2回 開催予定。